



目黒南中だより

令和7年度 第7号

令和7年11月4日発行

目黒区立目黒南中学校

【教育目標】 自立 協創 信頼



目黒南中学校ホームページ

「響け 僕らの第一楽章」…言葉の力

校長 金子弘樹

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われるように、お彼岸を過ぎてから朝晩の気温が下がり秋を感じるような気候になりました。その気温の変化だけでなく、インフルエンザやのど風邪の感染拡大があり、健康管理の難しい日々が続いています。このような状況の中、10月29日（水）、めぐろパーシモンホール大ホールにて、令和7年度第1回文化発表会を開催し、目黒南中学校の第一楽章を表現することができましたことを大変ありがたく思っています。



今年のスローガンは「響け 僕らの第一楽章」。響くは、広く伝える、心が通じる、感覚に訴えるなどいろいろな意味で使われています。当日は各クラスの合唱や部活動、英語スピーチなど日頃の表現活動の成果や努力した学習の成果を発表することができました。そして、一人ひとりの思いが、発表団体のそれぞれ思いが会場である大ホールに、そして参観している観衆の心に響き渡りました。とくに3年生の合唱は、曲の背景、歌詞に託された思いを一音一音に乗せて歌詞にある言葉を豊かに表現していたと思います。

「つかうほど増えてゆくもの かけるほど子が育つもの 答えは言葉」

「使えば使うほど増えるもの、なーんだ？」というなぞなぞの答えは「言葉」である。お金や時間やモノは使えば減ってしまう。でも言葉は、……増えてゆくのだ。

また、子どもを植物にたとえるなら、言葉は光であり水である。かけるほど吸収され、栄養になっていくというのが実感だった。……子どもが、少しでもいい方向に伸びるような言葉をかけてやりたいと思う。

（俵万智『生きる言葉』新潮新書から引用）

今年の文化発表会で表現された様々な言葉。合唱の歌詞や本の紹介、英語のスピーチ、ダンスや演奏に込められた言葉など。その一つひとつの言葉が、自己表現、気持ちの伝達、人と人との関係の構築につながるものであり、一人ひとりの成長につながるものだったと思います。

心を豊かにする言葉、心を動かす言葉。光であり、水である言葉。私たちも言葉の力を大切に……。

